

『奥能登スマート観光プロジェクト』体験バスツアーを開催！

～ AR(拡張現実技術)と4ヶ国語対応で、スマートフォンやタブレットが自分専属の観光ガイドに！ ～



モデル実験終了後は実用サービスをめざしたい
と話す齊藤北陸総合通信局長



ICT奥能登「絆」づくり協議会の座長を務める
金沢星稜大学の大藪多可志教授

北陸総合通信局(局長 齊藤一雅)は、5月23日(木)にICT奥能登「絆」づくり協議会及び北陸情報通信協議会との共催により、『奥能登スマート観光プロジェクト』の体験バスツアーを開催しました(本行事は、情報通信月間行事の一環として実施したもの)。ガイドブックの代わりにスマートフォンやタブレットを片手に観光スポットをめぐる“新しい観光スタイル”を実体験できる今回の斬新な企画に対し、台湾や韓国出身の方を含め37名が参加しました(テレビ局2局が同行取材)。

奥能登スマート観光プロジェクトでは、本年の3月4日からスマートフォンやタブレット向けの観光情報提供サービスのモデル実験を行っており、奥能登を中心とする石川県内の445箇所の観光スポットにおいて、AR(拡張現実技術)を活用した便利でリッチな観光情報を提供しています。観光情報は、テキスト、写真のほか、動画(42箇所)や音声(150箇所)のコンテンツも掲載しています。

また、445箇所の内、158箇所は英語・韓国語・中国語(繁体字)にも対応しており、世界農業遺産の認定や小松・台北便の増便などで増加基調にある外国からの旅行者にも活用していただける仕組みをめざしています。

今回の体験バスツアーの目的は、今後の改善のために外国人を含む参加者から率直なご意見をいただくことであり、まず、有効性を評価するご意見としては、最近では外国からもフリー(個人)の旅行者が増えているので、自分専属の通訳兼観光ガイドとして頼りになり、期待する、そのためにもっと多言語のコンテンツを増やしてほしいとのご意見がありました。

また、問題点や今後解決すべき課題としては、日差しが強い場所では画面が見づらい、タブレットならいいがスマホでは画面が小さくて見づらい、バッテリーを消耗する、そのため、アプリをこまめに終了すると、起動とデータの取り込みに時間がかかる、表示がやや遅いなどのご意見がありました。

『奥能登スマート観光プロジェクト』体験バスツアーを開催！

～ AR(拡張現実技術)と4ヶ国語対応で、スマートフォンやタブレットが自分専属の観光ガイドに！ ～



台湾出身で輪島市在住の高禎蓮さんに
奥能登の魅力を紹介していただきました。



観光スポットに向かって歩きながら、
AR(拡張現実技術)による観光ナビを体験

また、今回訪問した観光地のネットワークインフラは概ね3Gですが、特に外国人がよく訪問する場所ではWiFi環境を整備すべきとのご意見もありました。

今後、参加者からいただいたご意見を集約し、課題を整理し、改善に生かしていきたいと考えています。

今回、奥能登の観光地をめぐるなかで、日本の原風景である“のとの里山里海”の自然や歴史、文化の素晴らしさを実感するとともに、地域を支えている沢山の魅力溢れる方々と出会うことができました。

北陸総合通信局では、今後もICTの技術とアイデアを活用して、“外国人にやさしい観光”、“高齢者にやさしい観光”の実現をめざして、取り組んでいきたいと考えています。

奥能登スマート観光プロジェクトのモデル実験は8月31日まで実施します。

今後は、モデル実験の内容をさらに充実させるとともに、実験終了後の自走化(実用サービスへの移行)に向けた取組を進めていく考えです。

問い合わせ先：情報通信部情報通信振興室 076-233-4430

『奥能登スマート観光プロジェクト』体験バスツアーを開催！
～ AR(拡張現実技術)と4ヶ国語対応で、スマートフォンやタブレットが自分専属の観光ガイドに！ ～



全国的にも名高い白米(しろよね)千枚田で
スマホやタブレットを片手に能登の海風と絶景を楽しむ



同行取材のテレビ局は外国人参加者の感想に
注目していました